

巻頭写真 四川省北東部光霧山のタイワンブナとエングラーブナの優占林

Forests dominated by *Fagus hayatae* and *Fagus engleriana* on Mt. Guangwu, northeastern Sichuan, China

大巴山脈に属し、四川省北東部南江県の陝西省との省境に位置する光霧山には、タイワンブナ *Fagus hayatae* とエングラーブナ *F. engleriana* の優占林が分布する (楊, 1999)。光霧山にはジオパークを含む自然保護区があり、秋にはタイワンブナ林の紅葉 (写真1) を見に訪れる観光客で賑わう。タイワンブナは、テリハブナ *F. lucida* やナガエブナ *F. longipetiolata* とともにブナ亜属に、エングラーブナはイヌブナとともにエングラーブナ亜属に分類されている (Shen, 1992)。タイワンブナは台湾に加え、エングラーブナとともに揚子江中下流域の北側の山地に主に分布する。この2種の分布域は、中国南部にも広く分布するテリハブナやナガエブナに比べて北に偏る。タイワンブナの葉にはテリハブナやナガエブナと同様に葉縁に鋸歯があり (写真2)、日本の新第三紀の化石種ムカシブナ *F. stuxbergi* の葉に似る。大坝林場 (標高 1680 m) では、尾根筋に分布するタイワンブナの純林の中を散策できる。高木層のタイワンブナは胸高直径約 60 cm, 樹高 18 ~ 20



写真1 黄橙色に紅葉するタイワンブナの優占林。タイワンブナは斜面から尾根筋にかけて分布し、尾根筋では純林になる (小兰沟, 標高 1370m)。



写真2 タイワンブナの葉。



写真3 河岸段丘上のエングラーブナ優占林 (黒熊沟, 標高 1630 m)。

mになり、樹幹は単幹、樹皮には地衣類や藻類が付着しているが、日本のブナ *F. crenata* の樹皮ほど色鮮やかではない(写真4)。亜高木層にコナラ属アカガシ亜属 *Quercus oxyodon* がわずかに分布し、低木層はヒサカキ属 *Eurya* などの常緑低木やササ類に覆われている。

タイワンブナが斜面から尾根筋に分布するのに対し、エングラブナは沢沿いに優占林を形成する(写真3)。エングラブナは、多数の萌芽枝を発生させる性質や(写真5)、二次脈が多く主脈上に長い絹毛がある葉の形態がイヌブナに似るが、イヌブナよりも殻斗が大きく、線状に長くのびる殻斗鱗片がある。中国のブナ属分布域の北限に近い光霧山のブナ属優占林は、貴州省梵浄山のテリハブナやナガエブナの林(楊, 1999; 百原ほか, 2011)に比べると群落構造や種組成は単純で、落葉広葉樹の占める割合が大きい。森林の相観は、後期中新世以降のムカシブナが優占する古植生に、より近いと考えられる。

引用文献

百原 新・齋藤 毅・黄 永江・周 浙昆. 2011. 巻頭写真: 貴州省東北部梵浄山のテリハブナとナガエブナの優占林. 植生史研究 20: 1-2.

Shen, C. F. 1992. *A monograph of the genus Fagus Tourn. ex L. (Fagaceae)*. Ph.D. Dissertation. 390 pp. The City University of New York, New York.

楊 良. 1999. 中国南西部地方のブナ林に関する植生学的研究. 「第8期プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成成果報告書」, 123-137. (財)自然保護助成基金・(財)日本自然保護協会.

(百原 新・楊 永川 Arata Momohara and Yongchuan Yang)



写真4 タイワンブナの樹幹と常緑低木からなる低木層(大坝林場, 標高1680m).



写真5 沢沿いで多数の萌芽枝を発生させるエングラブナ(黒熊沟, 標高1630m).